

7月7日に新潟地方気象台が発表した1か月予報（7月9日～8月8日）では、向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並みの見込みです。現在、倒伏に大きく影響を与える下位節間が伸長する時期を迎えているため、天候や生育状況を観察し、適正な穂肥で品質・食味を確保しましょう！

稲作技術情報

穂肥1回目時期は生育に合わせた施用、2回目時期は確実に施用

品質確保には、登熟後期まで栄養を維持するための2回目時期の穂肥が重要です。2回目時期に重点を置いて施用するために、1回目時期の穂肥は生育診断に基づいた施用を行いましょう。

○出穂期予想

【コシヒカリBL】（7月6日現在 アグリルックより）

管内の田植え最盛期5月22日

地域	田植日	出穂期予想	穂肥施用時期の目安	
			1回目時期 幼穂長1.0～2.0cm (出穂18日前～15日前)	2回目時期 葉耳間長0cm (出穂10日前)
平坦地	5月10日	8月1日	7月14日～7月17日	7月22日
	5月15日	8月4日	7月17日～7月20日	7月25日
	5月20日	8月5日	7月18日～7月21日	7月26日
	5月25日	8月7日	7月20日～7月23日	7月28日
	5月30日	8月10日	7月23日～7月26日	7月31日
高標高地 (400m 程度)	5月15日	8月9日	7月22日～7月25日	7月30日
	5月20日	8月10日	7月23日～7月26日	7月31日
	5月25日	8月11日	7月24日～7月27日	8月1日
	5月30日	8月14日	7月27日～7月30日	8月4日

・出穂期予想は、今後の気象条件等によって前後する場合があります。

・出穂期は、圃場の40～50%が出穂した時期です。

圃場毎に生育のバラつきがあるため、上記出穂期予想を目安に生育診断に基づいて穂肥施用の判断を行いましょう。

※穂肥施用のための生育診断、幼穂の確認方法、穂肥施肥量の目安はあぜみちNo.6をご確認ください。

○3回目穂肥で高温対策（出穂3日前）

高温登熟年において極度の退色がある場合は、3回目の穂肥の検討も必要です。但し、出穂後の窒素施用は食味に影響するため、施用時期・施用量は営農指導課までご相談ください。

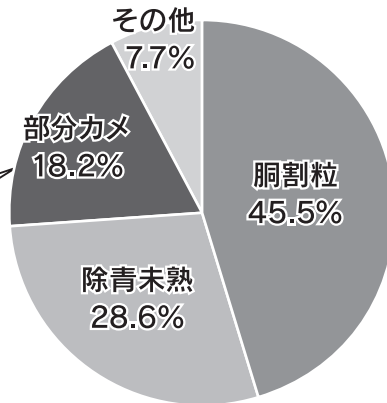
（基肥一発肥料施用圃場も含む）

○斑点米カメムシ対策

近年、カメムシ類の生息頭数が増加傾向であり、斑点米の発生が増加しています。畦畔等の草刈りを徹底するとともに、散布適期に本田内での薬剤防除を行い、斑点米被害を防止しましょう。

令和3年産米農産物検査では、部分カメが胴割粒、除青未熟に次ぐ、格落ち理由となりました。

R3農産物検査主な格落ち理由（JAみなみ魚沼）



○病害虫防除薬剤 散布適期に防除を行いましょう。

病害虫	薬剤名	散布量(10a当り)	散布適期
斑点米 カメムシ類	スタークル	粒剤	3kg
		粉剤DL	3kg
		液剤10	1,000倍液 60~150ℓ
	キラップ	粒剤	3kg
		粉剤DL	3~4kg
		フロアブル	1,000~2,000倍液 60~200ℓ
いもち病	ブラシン	粉剤DL	3~4kg
		フロアブル	1,000倍液 60~150ℓ 散布
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL	3~4kg	出穂20日前~10日前 ※出穂10日前まで

※カメムシ類は、本田内のヒエ、ホタルイを好みます。雑草防除もあわせて実施しましょう。

※ボルドー剤は、「出穂10日前以降」また「朝露、夜露が付着している時」は薬害リスクがあるため散布しないでください。

※農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し、登録内容を厳守してください。

○異常気象対策

6月下旬から気温が高い日が続き、新潟地方気象台の発表した1か月予報でもあるように、幼穂形成期から成熟期まで高温が予想されます。中間追肥でのケイ酸資材施用や有機質穂肥の施用で、異常気象に負けない丈夫な稲づくりに取り組みましょう！

- ケイ酸：稲の根量が多くなるとともに、高温時に葉や穂の温度を上昇しにくくする効果が期待できます。また、葉や茎を硬く丈夫にし、耐倒伏性の向上が期待できます。
- 有機質：地力向上やケイ酸との併用で異常気象への稲体抵抗力を高める効果が期待できます。

次号「あぜみち」予告

- 稲作…登熟期間の水田管理と本田内防除について
- 園芸…秋野菜の作り方について

ご不明な点がございましたら、JAみなみ魚沼営農指導課
(アグリセンター大和：Tel777-3786 しおざわ基幹センター：Tel782-1171)
までお問い合わせください。